

事業群評価調書(令和元年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	教育庁学芸文化課
施策名	(4) 我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成	課(室)長名	草野 悦郎
事業群名	⑥ 創造性や独創性など豊かな人間性を育てる子どもたちの文化芸術活動の推進	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 子どもたちの文化力の向上とすそ野の拡大を図るため、市町教育委員会や中学校文化連盟、高等学校文化連盟と連携し、中高を通じて文化力を向上させる施策に取り組みます。また、文化芸術の鑑賞や成果発表の機会を提供し、子どもたちの文化活動を推進します。						(取組項目) i) 中高対象の研修会の実施や文化部活動への支援 ii) 小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供				
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 「子ども県展」は、市町教育委員会及び県造形教育研究会と連携し、児童生徒の図工・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創作の喜びを味わわせ、また、作品の鑑賞を通して、表現力の向上や豊かな情操の育成を図ることを目的として、県内の小・中学校及び特別支援学校小・中学部の児童生徒を対象に作品を募集し、優秀作品の表彰及び作品展を開催している。 平成30年度には前年度を上回る85,114点の応募があった。平成17年度に県の主催事業となつて以降、募集方法の改善や、作品作りの授業への組込みなどを推進した結果、応募率が年々上昇し、ここ数年は70%を超えており、子どもたちの創作活動、美術に対する関心の高まりが表れている。 <H24: 58.7%(70,168/119,500)、H25: 61.1%(71,605/117,263)、H26: 59.9%(68,837/114,903)、H27: 65.9%(74,711/113,438)、H28: 70.7%(78,969/111,623)、H29: 74.0%(81,189/109,722)、H30: 78.3%(85,114/108,660)>(応募者数/全児童・生徒数)
	目標値①		64.0%	65.5%	67.0%	75%以上を維持	75%以上を維持	75%以上を維持(R2)		
	実績値②	60.0%(H26)	70.7%	74.0%	78.3%			進捗状況		
	「子ども県展」への応募率		②/①(達成率)	110%	112%	116%			順調	

2. 平成30年度取組実績(令和元年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 平成30年度事業の実施状況 (令和元年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			平成30年度事業の成果等	中核事業		
				H29実績	H30実績	R元計画			うち一般財源	人件費(参考)	指標			主な目標	H29目標
1	取組項目 i	中学校・高等学校文化活動推進事業費	H18-	25,133	25,133	8,056	中学生、高校生、教員	中学校・高等学校の文化活動の推進とすそ野の拡大を図ることを目的として、積極的に活動する部活動等を指定し、その活動に対する助成を行うとともに、県総合文化祭及び全国総合文化祭への参加費等への支援を実施した。	活動指標	文化活動推進校(中学校・高等学校)に指定した学校数(校)	48	48	100%	●事業の成果 ・中学校・高等学校の文化活動推進指定校による文化活動の育成強化への支援や、県総合文化祭開催及び全国総合文化祭参加への支援等により、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟の連携が強化されるとともに、中学校・高等学校の文化活動の活性化の推進が図られた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・成果指標目標値を超え、中学校・高等学校の文化活動の推進等に寄与した。	○
				25,810	25,810	7,972				47	47	100%			
				24,575	24,575	7,176				41					
		学芸文化課						成果指標	九州大会以上で入賞した中学校・高等学校部活動数(部)	48	45	93%			
									大会に参加した中学生数(人)	47	57	121%			
										50					
										6,000	6,303	105%			

2	魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業	H18-	2,615	2,615	5,639	小学生、中学生	子どもたちの図工・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創造の喜びを味わわせ、表現力の向上や豊かな情操の育成を図るため、県内小・中学校の児童・生徒を対象とする作品を募集し、優秀な作品の表彰及び展示(総合展・巡回展)を行った。	活動指標	子ども県展参加校数の割合(%)	100	90	90%	●事業の成果 ・「子ども県展」に向けた制作を通じて、表現力の向上と、県内の子どもたちの図工・美術に対する興味・関心を高めることができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・成果指標目標値を超え、子どもたちの図工・美術に対する意欲・関心に寄与した。	○
			2,347	2,347	5,580			成果指標	子ども県展応募者数(人)	79,000	81,189	102%		
			3,227	3,227	5,581			78,585	85,114	104%				
学芸文化課														
3	子ども舞台芸術鑑賞事業	H18-	11,718	11,718	5,639	幼児、小学生、中学生、高校生	子どもたちの豊かな感性や情操を育み、文化活動の振興を図るため、小・中・特別支援学校の児童・生徒を対象として音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供した。	活動指標	青少年劇場公演数(公演)	26	26	100%	●事業の成果 ・小・中・特別支援学校の児童・生徒を対象とする音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術鑑賞の機会の提供等により、子どもたちの豊かな感性や情操を育むことができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・成果指標目標値を超え、舞台芸術の鑑賞機会に寄与した。	○
			8,466	8,466	5,580			成果指標	青少年劇場鑑賞者数(人)	6,786	6,790	100%		
			9,286	9,286	5,581			6,498	6,997	107%				
学芸文化課														
4	ながさき“若い芽”のコンサート開催費	S62-	2,924	2,924	7,250	小学生、中学生、高校生	子どもたちの豊かな心の育成と青少年の文化活動の振興を図ることを目的として、クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会を提供するため、ながさき“若い芽”のコンサートを開催した。	活動指標	コンサート開催回数(回)	1	1	100%	●事業の成果 ・クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会提供として、ながさき“若い芽”のコンサート開催により、子どもたちの豊かな心の育成と芸術文化活動に取り組む人材の育成が図られた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・指標目標値を下回っているものの、本事業の実施により青少年の文化活動の振興は図られている。	○
			1,913	1,913	5,580			成果指標	オーディション応募者数(人)	144	143	99%		
			3,355	3,355	5,581			147	134	91%				
学芸文化課														

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

#### i) 中高対象の研修会の実施や文化部活動への支援

中学校・高等学校の文化活動については、全国大会や九州大会において上位入賞など優れた成績を収めており、年々、文化活動の活性化が図られている。子どもたちの豊かな感性や情操を育むため、今後も、県中学校文化連盟や県高等学校文化連盟と連携しながら、本県中学生・高校生の文化活動の活性化を支援するための施策が必要である。

#### ii) 小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供

・音楽、演劇、古典芸能などの優れた舞台芸術鑑賞事業は、鑑賞機会の少ない離島・半島地域の学校や特別支援学校を優先して実施している。本事業は、子どもたちが優れた文化芸術に直接触れることのできる有効な施策であり、子どもたちが歴史・伝統・文化に対する理解を深め、豊かな感性や情操を育むため、今後も、文化芸術の鑑賞機会の提供が必要である。  
・「子ども県展」は、県内の小中学校の学習活動の中で制作する図工・美術作品の発表機会として、県内の子どもたちに広く定着し、子どもたちの目標の一つとなっており、応募率も年々高くなっている。本事業は、今後も、子どもたちの図工・美術に対する関心を高めるとともに、表現力や豊かな情操を育むための施策として必要である。  
・「ながさき“若い芽”のコンサート」は、声楽、ピアノ、弦楽器、ギター、管楽器・打楽器の5つの部門で構成される青少年を対象とするコンクールで、県内では類を見ない、子どもたちの発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標の一つとなっている。子どもたちから楽器を演奏し、音楽の喜びを体験することは、継続して芸術文化活動に取り組む人材を育成するうえで非常に有効であり、子どもたちの豊かな情操を養い、より豊かな人間性を育むため、本事業は、今後も成果発表の機会提供の施策として必要である。

#### 4. 令和元年度見直し内容及び令和2年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和元年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和元年度の新たな取組は「R元新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	令和2年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目 i	中学校・高等学校文化活動推進事業費	平成30年度第18回全国中学校総合文化祭長崎大会を契機として、中学校文化活動の育成強化や生徒に対する意識・意欲の向上が継続的に図られている。 県高等学校文化連盟においては、全国レベルで活躍できる学校部活動等に対する活動経費の支援のほか、県全体の文化部活動の活性化とレベルアップにつながる各専門部への支援を通じ、文化活動の活性化が図られている。	—	高等学校においては、今後も、市町や学校の枠を越えた文化活動活性化の推進を図り、県総合文化祭「しおかぜ祭」開催への支援など、文化活動のさらなる活性化の推進を図ることが必要である。 中学校においては、平成30年度第18回全国中学校総合文化祭長崎大会を契機として、引き続き中学校文化活動の育成強化を図るとともに、生徒に対する意識・意欲の向上を継続的に図っていく必要がある。 また、全国レベルで活躍できる学校部活動等に対する活動経費の支援と、県全体の文化部活動の活性化とレベルアップにつなげ、各校が切磋琢磨をしながらさらなる大会成績向上を目指すための各専門部への支援を継続的に図っていく必要がある。	現状維持
2	取組項目 ii	魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業	これまで県内小中学校、各市町教育委員会及び教育機関等にポスター・チラシを配布し、応募率増加につなげることができている。令和元年度においても、引き続き広報活動を実施し、不参加校へのさらなる普及啓発を図る。	②⑥	「子ども県展」は、県内の小中学校の学習活動の中で制作する図工・美術作品の発表機会として、県内の子どもたちに広く定着し、子どもたちの目標の一つとなっており、年々、児童生徒数が減少する中、応募率は増加している。 今後とも、子どもたちの図工・美術に対する関心を高めるとともに、豊かな情操を育成するため、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、不参加校への働きかけを引き続き行うなど、さらなる普及啓発の改善を図る。	改善
3		子ども舞台芸術鑑賞事業	—	—	効果的・効率的な事業の実施を図りつつ、優れた文化芸術の鑑賞・体験機会がより充実するような取組を推進することが求められている。 このような中、離島や半島部の小規模校を対象に、今後も音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、歴史・伝統・文化に対する理解を深め、これらを尊重する態度や文化芸術を愛好する心情や感性を育み、豊かな心の涵養を図ることが必要である。	現状維持
4		ながさき“若い芽”のコンサート開催費	—	②	「ながさき“若い芽”のコンサート」は、声楽、ピアノ、弦楽器、ギター、管楽器・打楽器の5つの部門で構成される青少年を対象とするコンクールで、県内では類を見ない、子どもたちの発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標の一つとなっている。子どもたちから楽器を演奏し、音楽の喜びを体験することは、継続して芸術文化活動に取り組む人材を育成するうえで非常に有効であり、子どもたちの豊かな情操を養い、より豊かな人間性を育むため、本事業は、今後も成果発表の機会提供の施策として必要である。今後も、引き続き広報活動を実施し、オーディション応募者のさらなる確保を図る。	改善

注：「2. 平成30年度取組実績」に記載している事業のうち、平成30年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せていないか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点